

令和7年度 都城市立小松原中学校 学校評価書

(4段階評価 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要す)

令和8年2月26日

目標	数値目標	評価項目	自己評価	生徒	保護者	現状分析	次年度に向けての改善策	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
豊かな人間性の育成 【徳育】・誠実	①学校が楽しいと思う割合を90%以上を目指す。 ②人権宣言を意識して生活している割合を90%以上を目指す。	言語環境の整備	3.2	3.4	3.2	○生徒の自己評価が高い：「学校が楽しい」や「コミュニケーション能力」において、生徒の評価は3.4～3.6と高く、学校生活への適応や友人関係は良好であると考えらる。 ○道徳教育への一定の理解：「道徳科の充実」については、自己評価(3.3)および生徒評価(3.5)ともに目標値に近い水準にある。	●人権意識の定着：人権宣言を意識した生活の保護者評価(3.1)が、生徒(3.6)に比べてやや低めであるため、家庭と連携した人権教育の啓発を強化する必要がある。 ●言語環境のさらなる整備：言語環境の整備について、数値目標(90%以上)に対し、評価が3.2前後であることから、読書活動や発表機会の充実を通じた表現力の育成を継続する。	3.2	○家族以外とのコミュニケーションは、年代特有の影響もあると思いますが、なかなかとりづらようです。 ○生徒は友人関係を良好に保っているようで先生方の人間性の育成や啓発(教育含む)の効果が出ていると考える。
		コミュニケーション能力の向上	3.1	3.4	3.1				
		道徳科の充実	3.3	3.7	3.1				
		総合評価	3.3						
確かな学力の育成 【知育】・努力	①家庭学習(平日)2時間以上の割合を4月当初より10ポイント以上増やす。 ②図書室の貸し出し冊数を昨年度より10%以上増やす。	基礎基本の定着	3.2	3.3	2.8	○学習態度の課題：「主体的に学習に取り組む態度の育成」において、保護者評価が2.5と全項目中で最も低くなっており、学校での学びが家庭から見て「主体的」に見えていない可能性がある。 ○家庭学習の習慣化：平日2時間以上の学習割合について、保護者評価(2.3)や生徒評価(3.2)に乖離が見られ、家庭での学習時間の確保が依然として大きな課題である。また、「主体的に習に取り組む態度」も保護者評価は2.5に留まっている。これは、学校での指導が家庭での学習習慣に十分に結びついていない、あるいはその成果が保護者に伝わっていない可能性を示唆している。	●家庭学習の質的改善：「家庭学習の充実」に向け、単に時間を増やすだけでなく、タブレット端末の活用や、目標設定を明確にし、家庭での学習内容を可視化する方法を検討する。読書習慣を家庭学習の一部として位置づけるなど、自学自習の支援を強化する。 ●基礎基本の定着：総合評価が3.2～3.3であることから、個に応じた指導や小中連携による学力向上策をさらに推進する。継続した自立した学習者の育成。	3.2	○授業参観で拝見していると、学習態度は良好だとお見受けしました。いつでもその姿勢で取り組まれるとよいと思います。 ○家庭での学習習慣の向上は、保護者の実社会での経験を踏まえた望みと、生徒(少年)の自主的な取り組みとの乖離は必然と考える。それを少なくするための先生方の多方面に渡る支援等の努力が伺え評価できる。 ○小学校に比べ「子どもが主役の授業」についての先生方の意識のばらつきを感じました。
		主体的に学習に取り組む態度の育成	3.1	3.3	2.5				
		家庭学習の充実	3.3	3.2	2.3				
		総合評価	3.0						
たくましく生きる心と体の育成 【体育】・忍耐	①体力テストでAランク10%以上、Dランク10%減少を目指す。 ②各種治療率を前年度より10%以上を目指す。	体力と競技力の向上	2.9	3.4	2.8	○自己管理能力への意識差：「自己管理能力の向上」について、生徒の意識(3.5)は高いものの、実際の行動としての評価(2.8～2.9)には伸び悩みが見られる。 ○体力・健康面の課題：体力テストの結果や各種治療率の項目は、全体的に評価が3.0を下回っており(2.8～2.9)、運動習慣の定着や健康管理への取り組みが十分とは言えない。	●運動機会の確保と食育：体育授業の充実だけでなく、昼休みや部活動等での体力向上策、および食育を通じた健康な体づくりの意識啓発を行う。 ●治療勧告の徹底：各種治療率の向上に向け、保健日より等を通じた保護者への働きかけをさらに強め、早期受診を促す。	3.1	○中体連の大会での結果でも一生懸命さが伝わってくるようです。体育大会での取り組みも素晴らしいものでした。 ○先生方が生徒個々の小さな健康面の不安や課題を早期に察知されて、保護者への連絡等の働きかけをされていて、評価できる。 ○車で登校する小中学生の多さに驚きます。校区が広いので仕方ないと思う点もありますが。
		自己管理能力の向上	2.8	3.2	2.8				
		食育の推進	2.9	3.6	3.1				
		総合評価	3.1						
ふるさとを愛し地域に貢献する人材の育成 【郷土愛】	①今住んでいる地域の行事に参加している割合50%以上を目指す。 ②小中合同研修会の確実な実施を目指す。	地域活動の積極的な発信	3.2	3.3	2.7	○地域貢献活動の低迷：「地域社会への貢献活動」の評価(2.4～2.8)が低く、コロナ禍以降の地域行事への参加やボランティア活動の機会不足が影響していると考えられる。 ○小中連携の推進：「大王小との連携」については3.0～3.1と一定の評価を得ており、連携の基盤は整っている。	●地域行事への積極的参画：地域活動の発信を強化し(学校便りや学校HPの充実)、生徒が地域の行事や清掃活動等に参加しやすい環境(情報提供やボランティア枠の確保)を再構築する。 ●郷土愛の醸成：地域の人材を講師として招く(キャリア教育における地元事業所の活用)など、「ふるさと教育」を充実させ、地域社会の一員としての自覚を高める活動を推進する。	3.2	○地域との意識共有が必要です。学校はもとより、PTA関係者が積極的に取り組まなければ、理解は得られないと思います。 ○小中の校長と先生方の連携は、1中1小の利点で効果が出ている。地域行事の中で中学校生徒のボランティア活動などでは実施できない行事もあり、大変感謝されている。 ○落ち葉の時期の学校周りのボランティア清掃等一緒にできる活動が増やせるといいと感じています。
		地域人材の積極的な活用	3.3	3.2	2.7				
		地域社会への貢献活動	3.2	2.6	2.4				
		大王小との連携・拡充	3.0	3.1	3.1				
		総合評価	3.0						